

やま だ

人との関わりで育つ力

校長 佐久間 郁子



「大丈夫、大丈夫」と、数人の優しく明るい声が聞こえてきました。5月20日（土）に行った、山田小学校創立140周年記念運動会の閉会式直前のことです。思わず声のする方に目を向けると、閉会式でそれぞれ役割をもった子どもたちでした。会を進行する係、成績発表をする係などで本部テント付近に集まった子どもたちです。それは、「どうしよう。こういうの（全校の前で話すこと）苦手なんだよ」と話す子に、「練習だと思って」「落ち着いてやれば大丈夫」と励ましている周りの子どもたちの言葉でした。程なく、不安を口にしていた子が話す番になりました。私は、心配しながらその子の姿に目を向けつつ、周りの子どもたちの姿にも目を向けていました。緊張しながら話をする友達にまっすぐ視線を送る子どもたち。無事に話を終え、「あー、終わった」と、ほっとした様子で戻ってきた友達を「やった、やった」「できたじゃん」と、本部テント脇で拍手をして笑顔で迎える子どもたち。その子どもたちがかぶっていた帽子の色は、赤白混ざっていました。赤組白組とか、男女とか関係なく、友達を励ます姿に心の温かさを感じ、とても感動しました。もちろん、苦手と言いながらも役割を果たした子の頑張りにも感動です。

こうした姿は、学校や家庭、地域での人と関わる様々な経験が積み重なって現れたのだと思います。子どもたちは、学校生活で一緒に活動することにより仲間との関わり方や社会性を学んだり、心の居場所をつくったりしていきます。これからも人との関わりを大切にしたい教育活動を進めていきたい、そして上記のような姿を称賛して価値付けていきたいと強く感じる出来事でした。